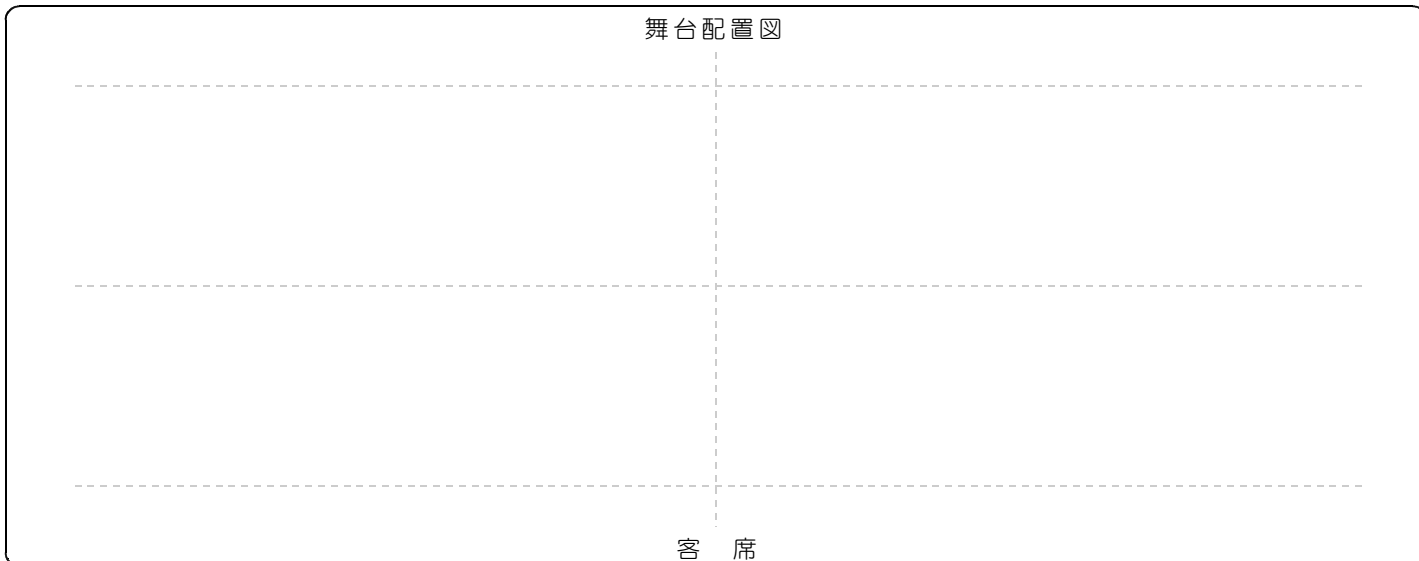


No.	砂 絵	演奏者数	演奏時間
-----	------------	------	------

舞台配置図



客 席

表示記号一覧	一 箏	= 17絃	+ 三絃	0 尺八	≠ 他楽器	* マイク	□ エコー	□ 毛氈	W 屏風
立 奏	立奏台	大 台	小 台	椅子	大 台	小 台	譜面台	台	ハイター 枚
座 奏	琴台	台	見台	台	山台	録音 有：無	録画 有：無	他	
始	緞帳：暗転	板付	毛氈 緋：紺	音響					
終	緞帳：暗転	板付	屏風 金：銀	照明					

調絃表	ピッチ A=44		編成：1箏								2箏			
Part	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	斗	為	巾	
1 箏	D	G	A	C	D	D#	G	A	C	D	D#	G	A	平より四九一音↑ 一は五の乙(D)
2 箏	1 箏と同調絃													

編成欄には面数を記入 開始調絃は太字 転調は上下の欄 ハーモニックスは右肩に○

作曲年 1972年 委嘱者 一 構成 箏 I・II 時間 7分 出版楽譜 前川出版

解説 手にすくった砂が、指の間からかすかな音を響かせてこぼれ落ちる。何度も何度もすくっては砂をまく。砂の起伏が様々に変化して… 飽かずくり返し、飽かず眺める。そんな遠い日の感触がふと甦って音になった。

1972年3月作曲。〔作曲者〕収録媒体 箏 沢井忠夫作品集2 (VZCG-579)

沢井忠夫 作品集1 讃歌 (MISH-0011) 沢井忠夫自作自演集1 讃歌 (KYCH-2010)

沢井忠夫アンソロジー 凧 沢井忠夫一作品集1 (MISH-0003)